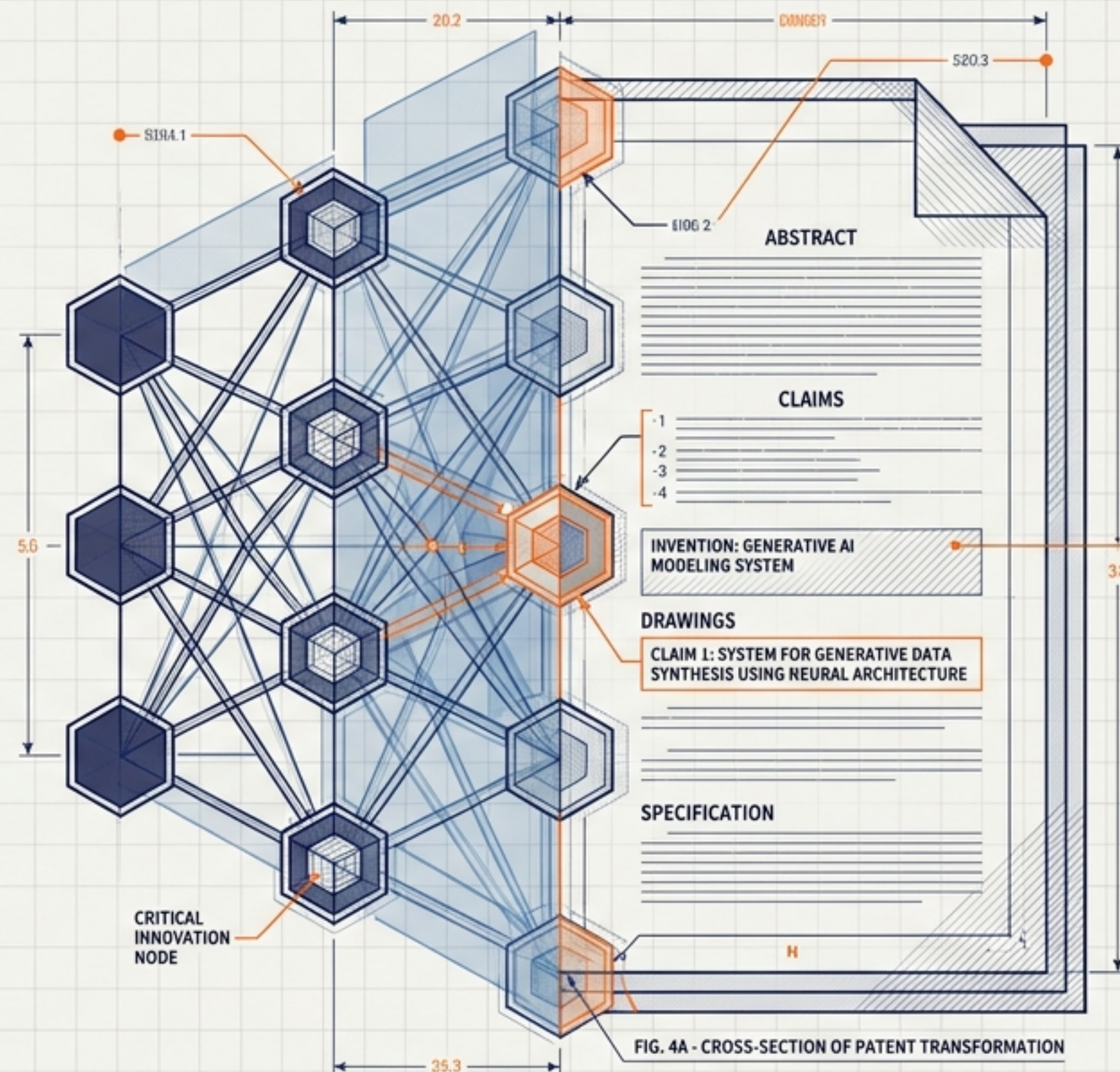
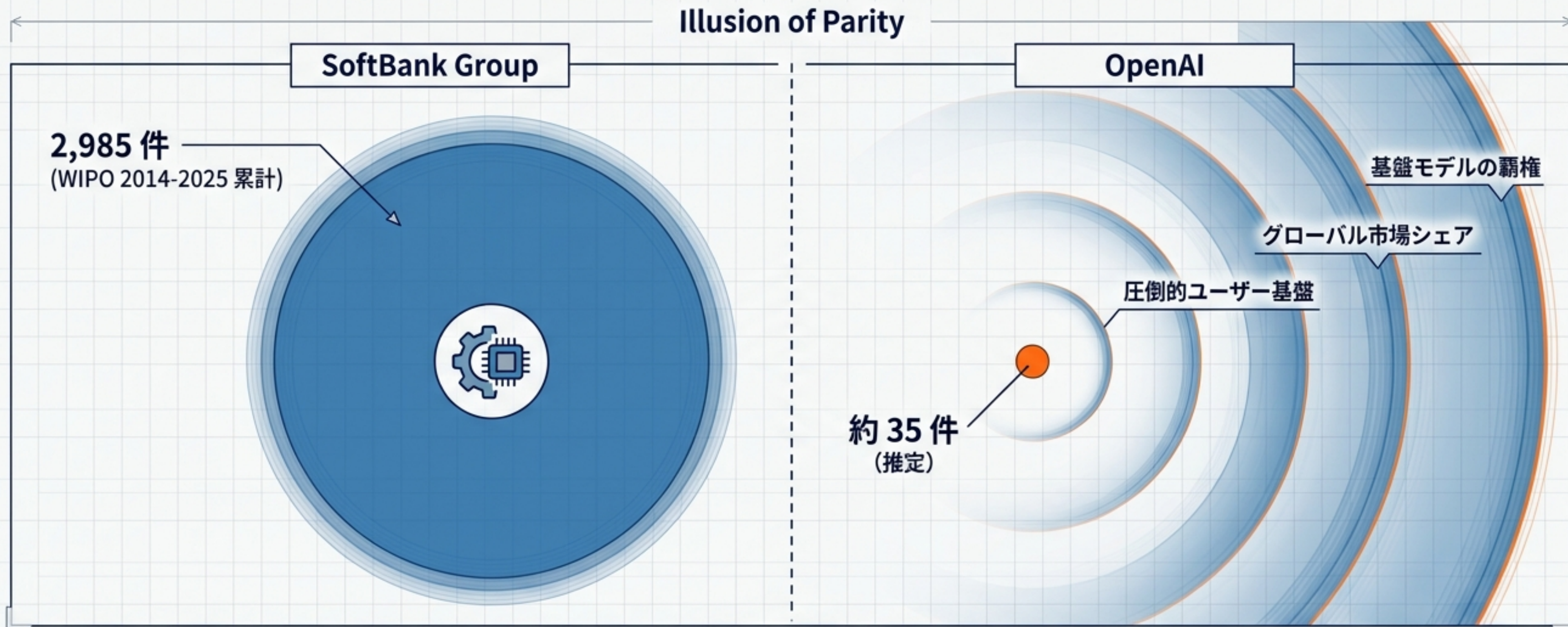


生成AI特許の 構造的真実

WIPO報告書「ソフトバンクG世界首位」
から読み解く、日本企業者の現在地と
次世代知財戦略

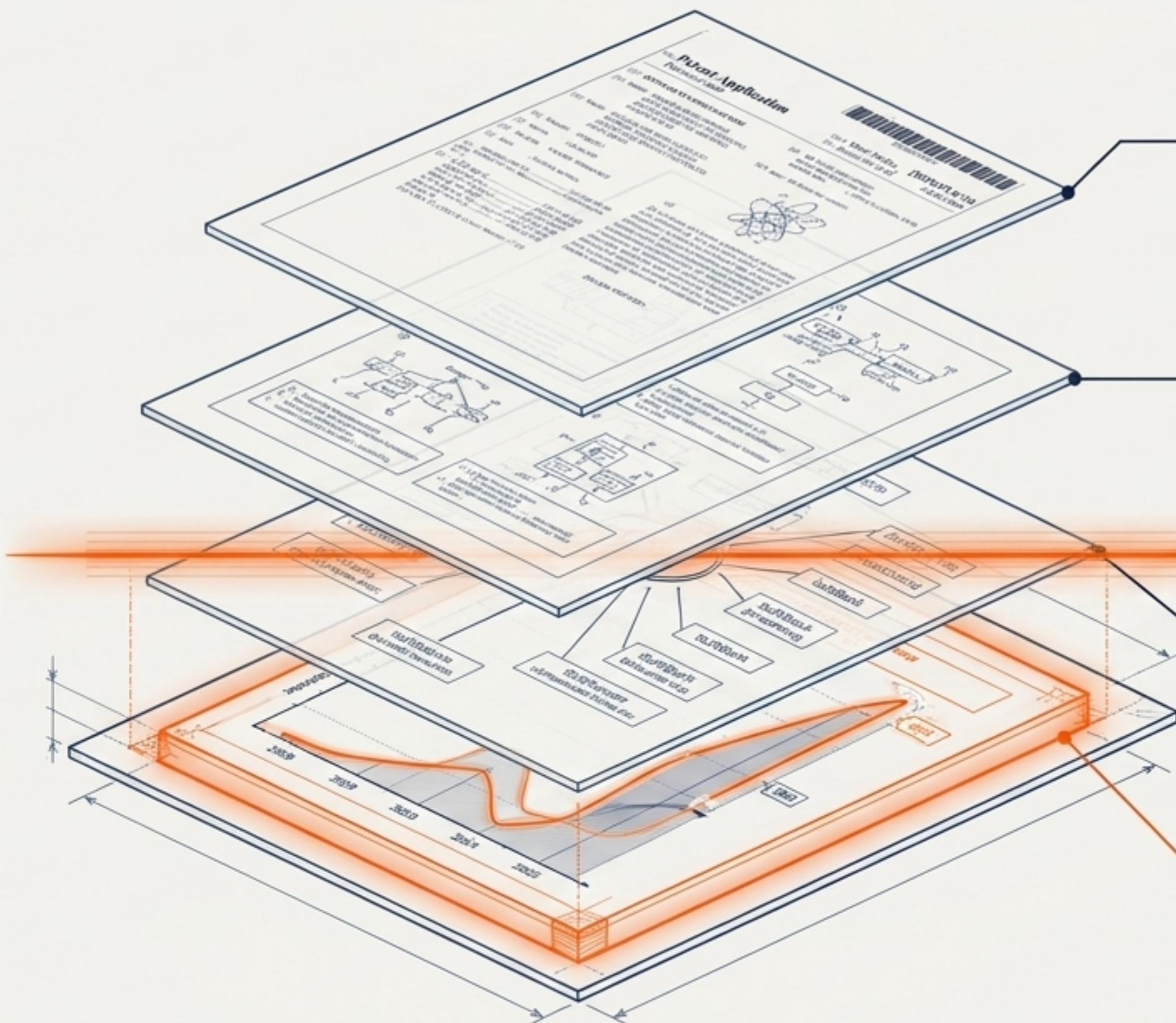


特許件数は、AIモデルの性能や市場支配力の代理指標ではない



今回の「世界首位」は、SBGが短期間で発明創出を仕組み化した驚異的な成果である。
しかし、それは「登録特許」や「基盤モデルの覇権」を意味するものではない。

WIPOデータの「X線解析」：ランキングの背後にある4つの事実



Layer 1: 公開出願の集計

登録・成立した特許の数ではない。
法的状態や請求項の強さは評価対象外。

Layer 2: 単純特許ファミリー

同一優先権の発明を一つにまとめた単位。
公報件数そのものではない。

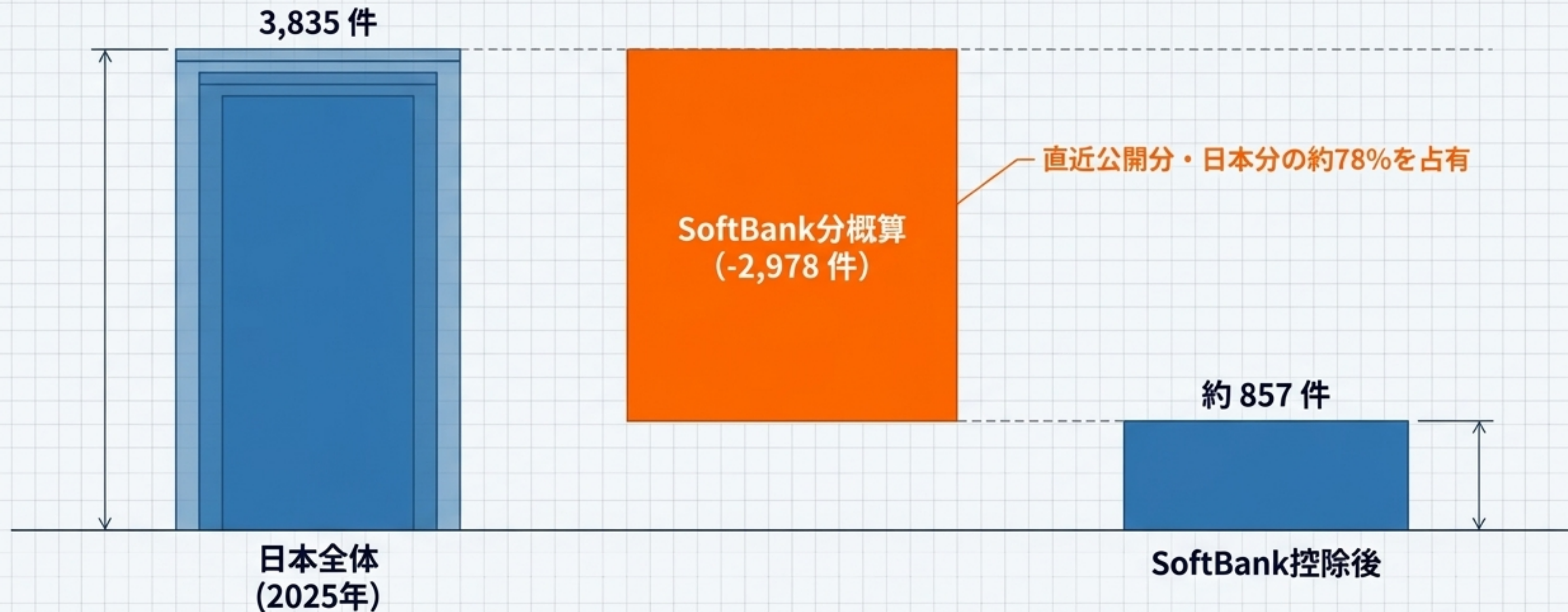
Layer 3: 最終親会社ベース

SoftBank はグループ集約名義であり、
通信事業単体のポートフォリオとは異なる。

Layer 4: 18ヶ月のタイムラグ

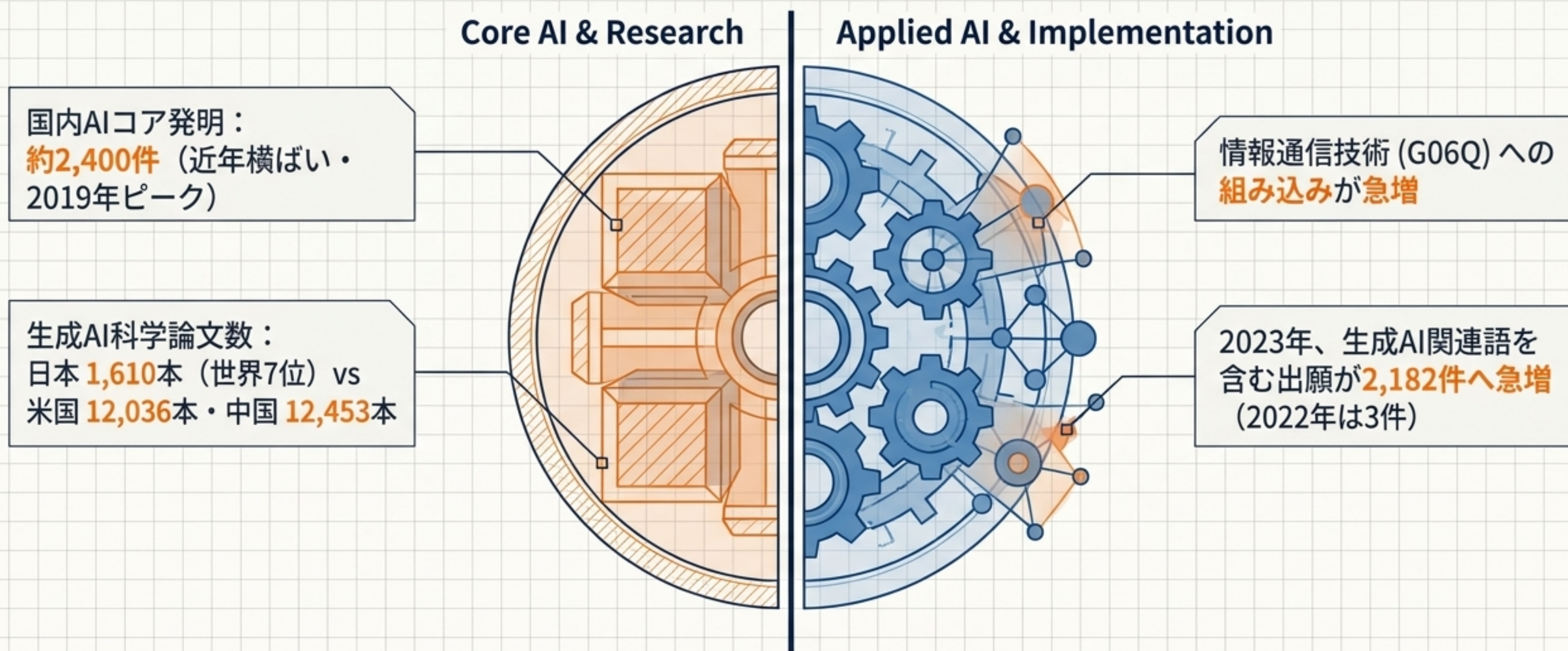
2025年の急増は、実際には2023~2024年の
集中出願活動の「遅行指標」である。

日本の急成長（210%）は、単一企業による「集中出願」が牽引



SBGを除いた日本の成長率は「年平均46.7%」。産業全体への波及は着実に進んでいるが、国の競争力が一気に飛躍したと誤認すべきではない。

日本の構造的課題：「AIコア」の停滞と「応用層」への偏重



戦略的要請：応用特許の量産だけでは、基盤モデルや計算資源を海外に依存する「エコシステムの空洞化」は防げない。

日本のエコシステム・マップ：主要プレイヤーの現在地と死角

NTT

現状と強み

軽量LLM「tsuzumi 2」
医療・金融展開
累計360件

主な課題

海外での反復販売・
ライセンス規模への
転換

Sony

現状と強み

画像・音声・ゲーム
クリエイター保護と
生成AIの両立(知財設計)

主な課題

Enterprise LLM
(5万人利用)の世界
展開

Fujitsu / NEC

現状と強み

業界特化LLM
マルチエージェント・
安全性

主な課題

国内個別SIから、グロ
ーバルにスケールする
製品・権利群への脱却

製造業

現状と強み

車載・ロボット・
物理世界のデータと
AIの実装力

主な課題

基盤モデルやデータ
流通の上位レイヤー
での主導権確保

SBGの「発明パイプライン」：着想から知財化までの仕組み化

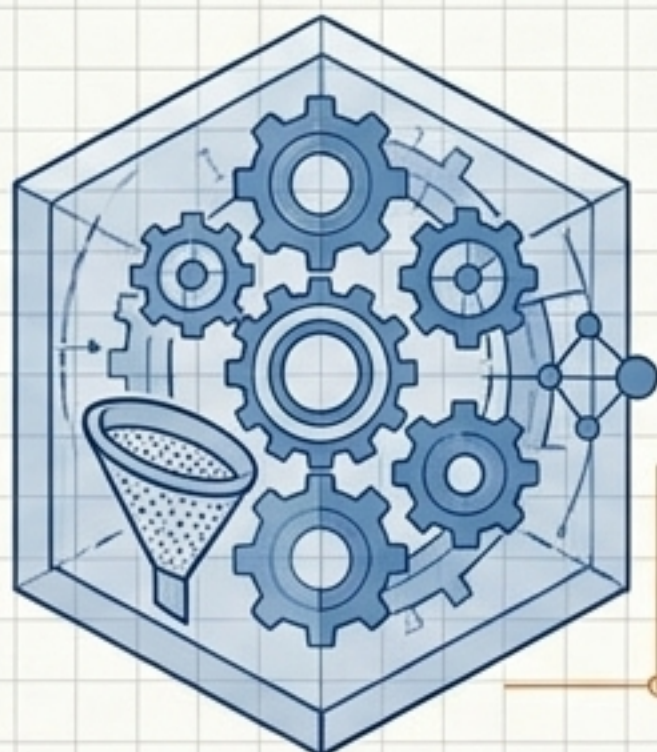
Invention Machine

Stage 1: Raw Input



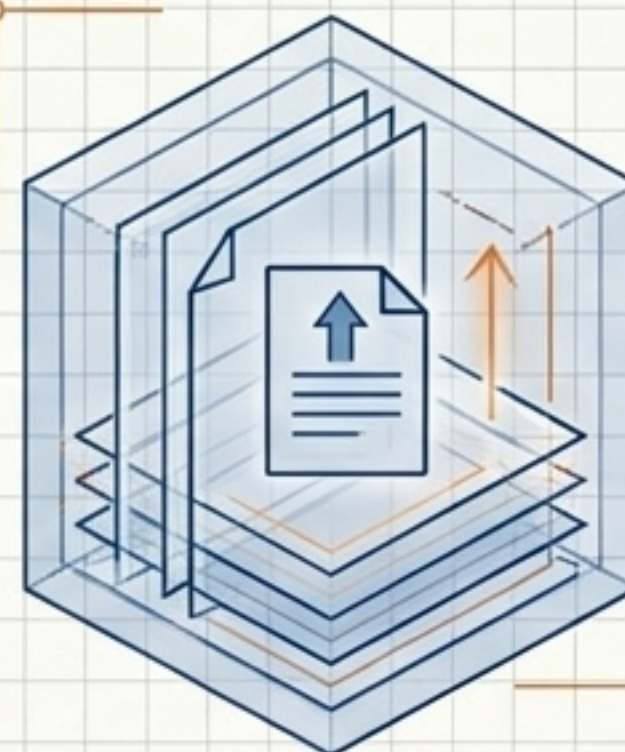
グループ社員・学生
コンテスト
(21万件超のアイデア)

Stage 2: Processing



知財部門によるスクリーニング、先行技術評価、国内優先権による具体化

Stage 3: Output



6,000人超の発明者
による大量出願
(2023年集中)

Stage 4: Implementation



法人部門での
業務時間削減
(年間8.7万時間)

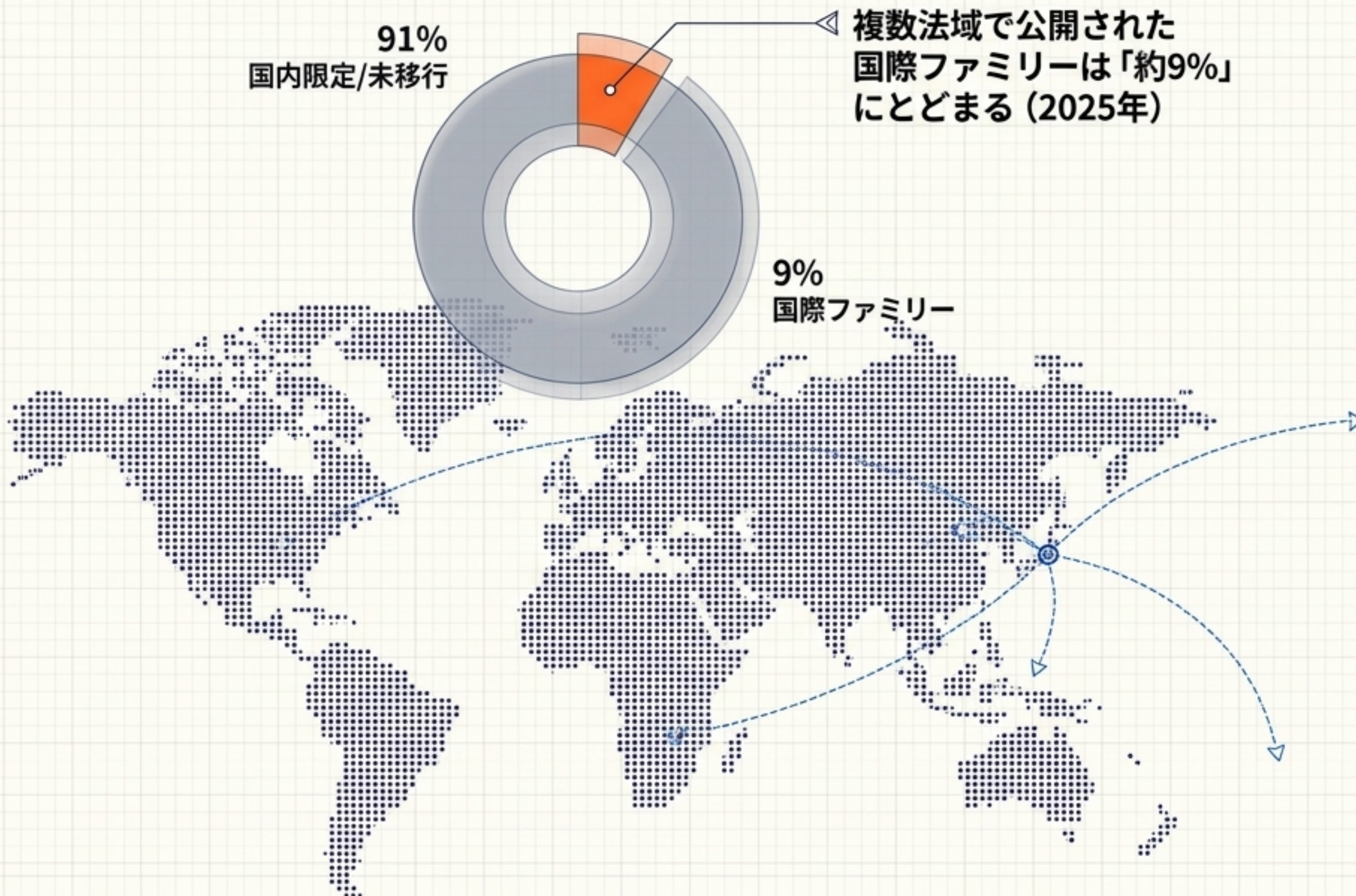
戦略的意図：広い分野の選択肢を迅速に確保する戦略。61%の発明者が1件のみに関与し、発明参加の裾野を極限まで広げた。

真価が問われる「2027～2029年の試練」



「現在は「広い選択肢を初期確保した」段階に過ぎない。真の競争力は、今後の審査を経て、他社製品をカバーできる「強い権利」がいくつ残るかで決まる。」

アキレス腱としての「グローバル権利化の遅れ」



Strategic Action

- 全件の海外出願は不要。
- しかし、重要クラスターは、AIの主戦場である米国・欧州・中国へ戦略的に移行 (PCT/パリルート) しなければ、グローバルな参入障壁やライセンス交渉力は生まれない。

KPIの再定義：量（Vanity）から質・事業価値（Value）へ

量的KPI (Traditional)

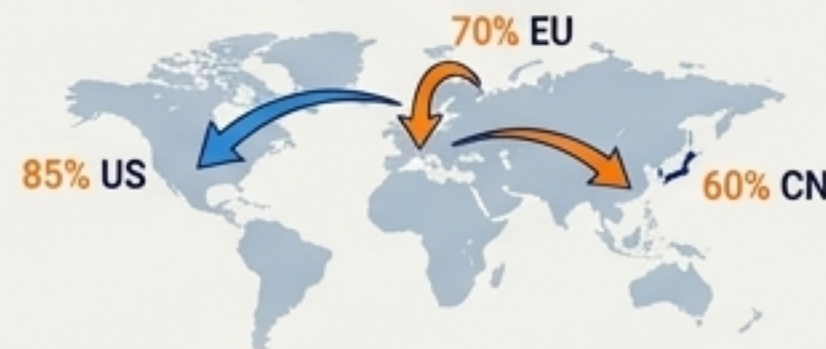
総出願件数
単純ファミリー数
WIPOランキング

戦略的KPI (Modern)

権利化: 審査後の独立請求項数（競合をカバーできるか）



国際性: 米欧中への移行率（主戦場を押さえているか）



事業性: 製品搭載率、対象売上、ライセンス収入



搭載率
95%

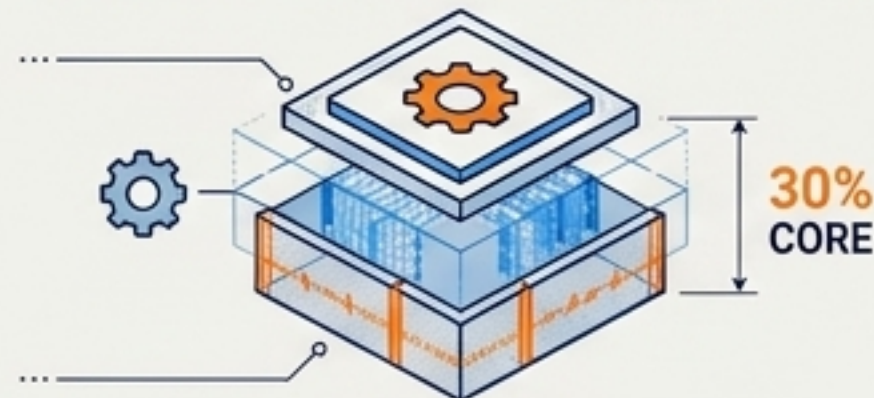


対象売上
\$1,000 万



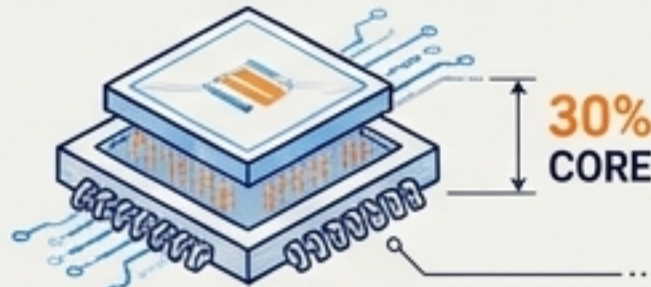
ライセンス収入
\$2,000 RU\$

技術性: 代替困難なコア技術（推論・安全性など）の比率



30%
CORE

技術性: 製具・フルコア技術（推論・安全性など）の比率



30%
CORE

リスク管理: FTO（侵害予防）完了率、データ・OSS審査率



FTO完了率

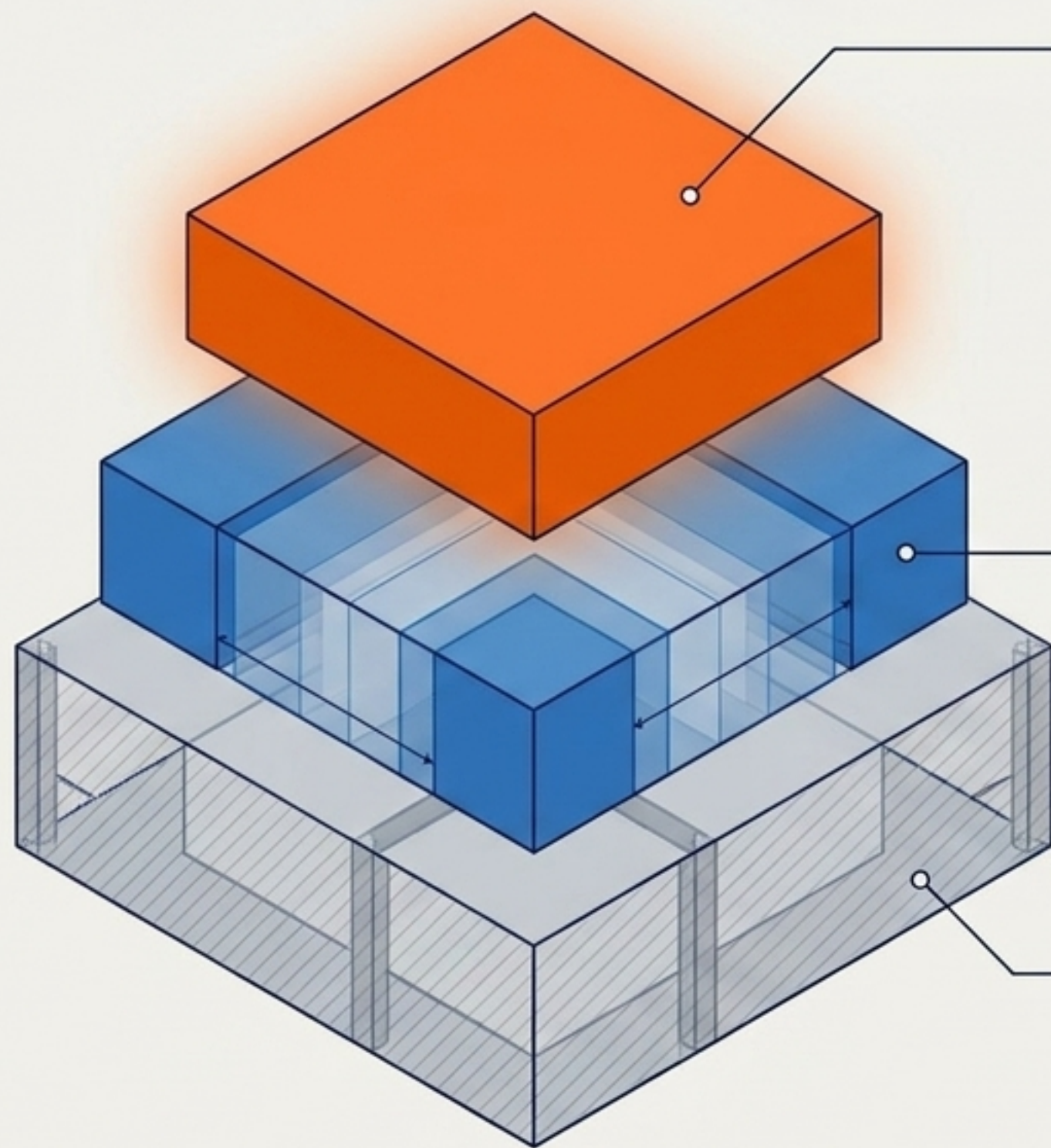
95%



OSS審査率

100%

戦略的ポートフォリオの再構築：3層（3-Tier）知財アーキテクチャ



A層 - Core/Global

長期競争力を左右する戦略特許（基盤モデル、推論効率、エージェント制御、安全性）。主要国（米・欧・中）へ積極展開。

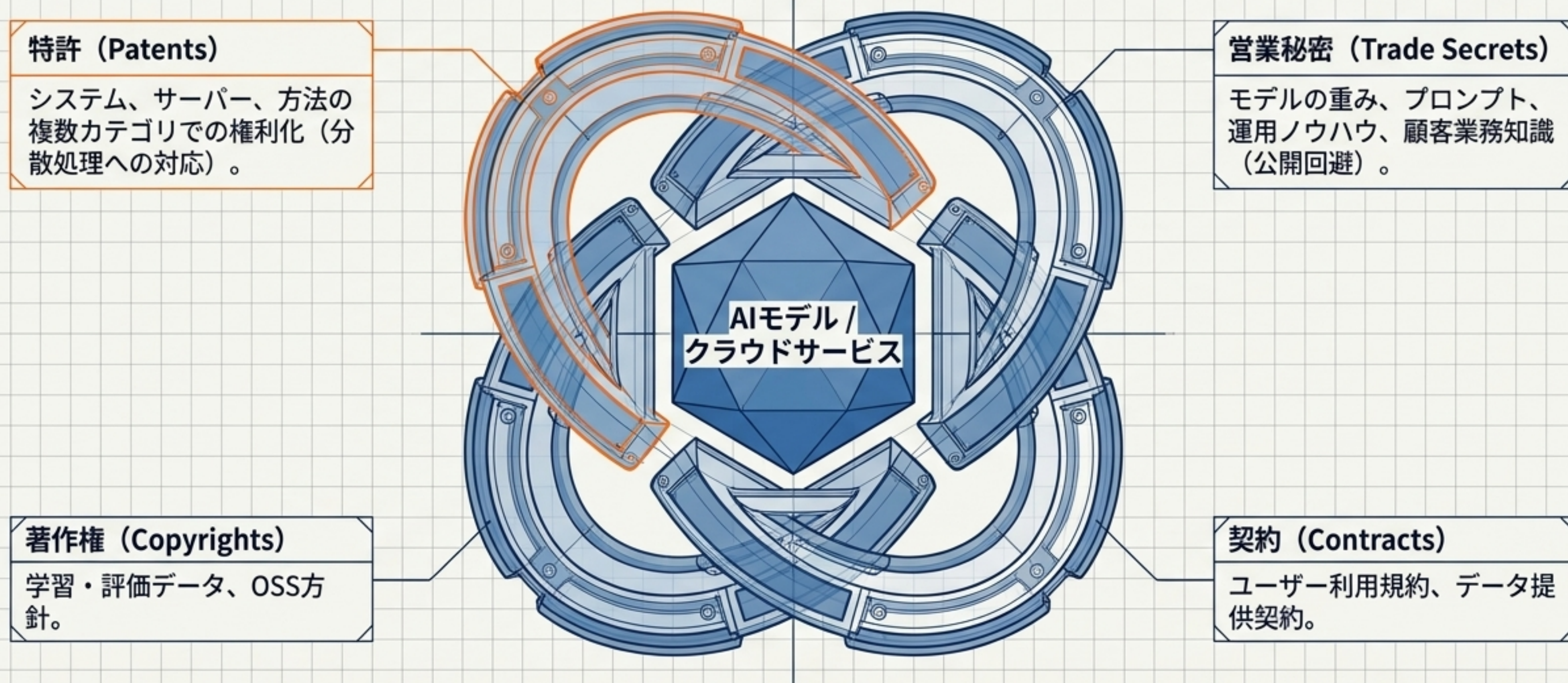
B層 - Applied/Domestic

業界別・顧客別に再利用可能な共通機能・実装特許。国内権利化を基本とし、事業計画に応じ海外展開。

C層 - Exploratory

個別アイデア・現場の探索案件。審査請求前に再評価し、技術的差別化が弱ければ計画的に放棄（コストコントロール）。

特許単独からの脱却：「包括的AI知財モート（防壁）」の構築



クラウド型AIは複数国にサーバーやユーザーが分散するため、特許権単独での侵害立証は極めて困難。
技術クラスター単位での「複合的知財ミックス」が必須となる。

次のフェーズへ：件数の誇示から、守れる権利と事業価値の証明へ

01

エコシステムの拡張

1社依存を脱却し、大学、スタートアップ、異業種との共同研究・人材流動を加速させる。

02

現場データとの結合

通信、製造、医療など、日本が持つ「物理世界のデータと顧客接点」にAIを統合し、世界で通用する権利として押さえる。

03

ガバナンスの徹底

人間の技術的寄与の記録（発明者認定）、学習データ、第三者著作物の適法性評価を一体管理する。

件数は重要な先行指標だが、最終的な成果は、守れる権利と継続的な事業価値によって判断される。

(WIPOデータ分析総括より)